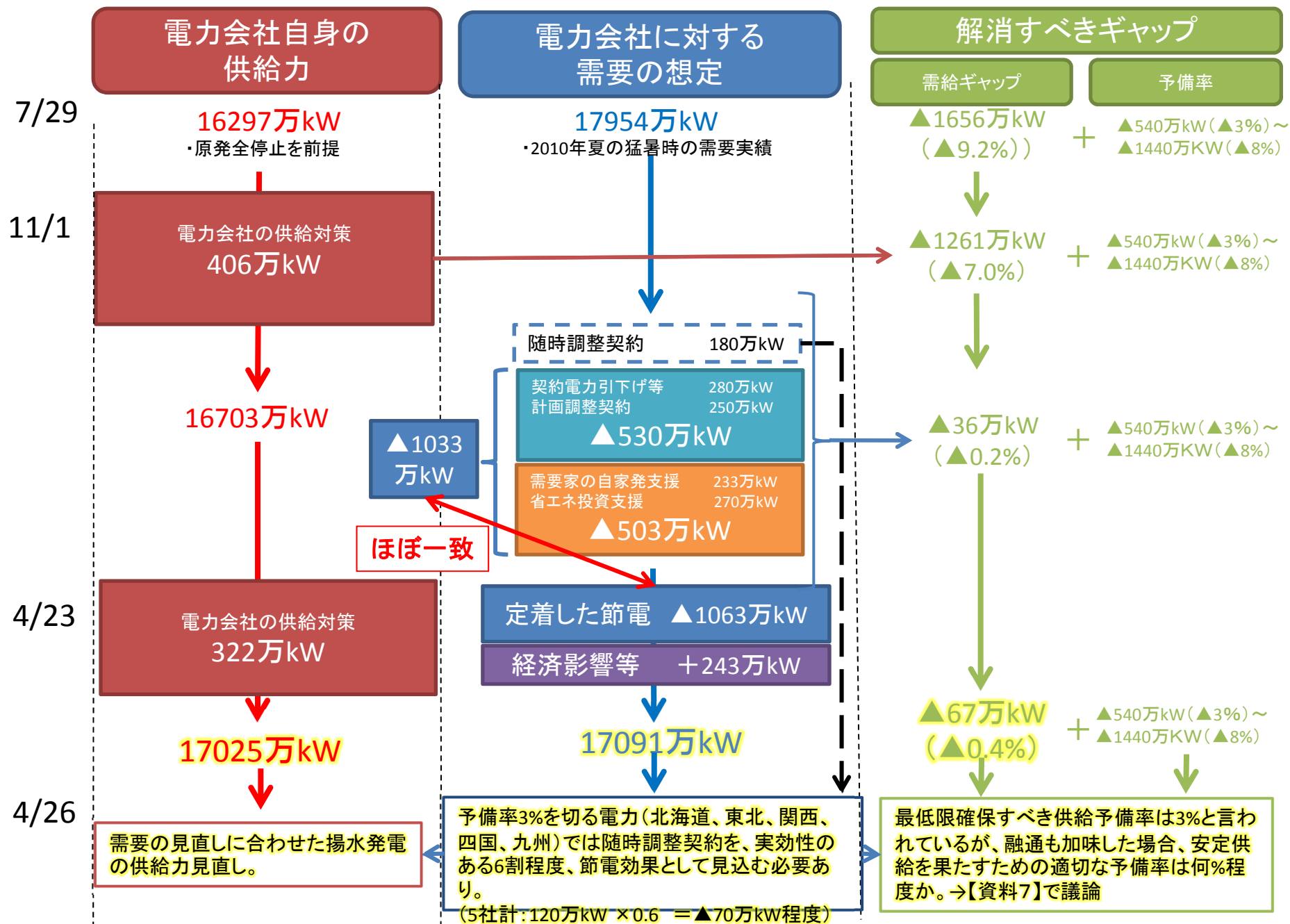


ここまでの需給に関する整理

6-1. ここまでの電力需給に関する整理



6-2. 電力各社の需給見込

○2010年猛暑を前提に、定着節電効果＋経済影響等を加味すると、需要想定は②の通り。需給ギャップは③の通りだが、さらに最低限確保が必要とされる予備率3%を加味すると、要解消ギャップは④となる。

○**○** は供給予備率3%を下回っている電力会社。この5社については随時調整契約を節電効果として見込む必要あり。

【2010年の猛暑、2012年の経済状況、定着している節電の効果を前提とした需給見込】

(万kW)	東3社	北海道	東北	東京	中西6社	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	9電力
①供給力	7731	485	1475	5771	9294	2785	2535	578	1235	587	1574	17025
②需要想定	7454	500	1434	5520	9637	2648	3030	558	1182	585	1634	17091
定着節電効果	▲674	▲14	▲50	▲610	▲389	▲97	▲102	▲21	▲30	▲16	▲123	▲1063
経済影響等	172	9	22	141	71	29	14	4	8	1	15	243
③供給力－需要想定 (予備率)	276 (3.7%)	▲16 (▲3.1%)	41 (2.9%)	251 (4.5%)	▲343 (▲3.6%)	137 (5.2%)	▲495 (▲16.3%)	20 (3.6%)	53 (4.5%)	2 (0.3%)	▲60 (▲3.7%)	▲67 (▲0.4%)
④要解消ギャップ 3%控除予備率 8%控除予備率	0.7% ▲4.3%	▲6.1% ▲11.1%	▲0.1% ▲5.1%	1.5% ▲3.5%	▲6.6% ▲11.6%	2.2% ▲2.8%	▲19.3% ▲24.3%	0.6% ▲4.4%	1.5% ▲3.5%	▲2.7% ▲7.7%	▲6.7% ▲11.7%	▲3.4% ▲8.4%

○7月に夏のピーク需要が生じた場合には、猛暑並気温・2012年経済状況・定着している節電効果を前提とした場合は、東日本で4.2%、中西日本▲4.7%の可能性あり。